

平成28年3月28日（月曜日）

第1回松島町議会臨時会会議録

（第1日目）

平成28年第1回松島町議会臨時会会議録（第1号）

出席議員（13名）

1番	澁谷秀夫君	2番	赤間幸夫君
3番	櫻井靖君	4番	（欠番）
5番	後藤良郎君	6番	小幡公雄君
7番	高橋幸彦君	8番	今野章君
9番	太齋雅一君	10番	色川晴夫君
11番	菅野良雄君	12番	高橋利典君
13番	阿部幸夫君	14番	片山正弘君

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

町長	櫻井公一君
副町長 兼総務課長	熊谷清一君
総務課長	亀井純君
財務課長	舘山滋君
企画調整課長兼 企画調整班長兼 まちづくり支援班長兼 震災復興対策室長	千葉繁雄君
町民福祉課長	阿部利夫君
健康長寿課長兼 高齢者支援班長	本間澄江君
産業観光課長	阿部礼子君
建設課長	中西傳君
会計管理者兼会計課長	安部新也君
水道事業所長	櫻井一夫君
危機管理監兼 環境防災班長	赤間隆之君

午後1時00分 開 会

○議長（片山正弘君） 皆さん、ご苦労さまです。

平成28年第1回松島町議会臨時会を開会いたします。

本日の会議を開きます。

町長より挨拶をお願いいたします。町長。

○町長（櫻井公一君） 本日、第1回松島町議会臨時会を開催するに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

議員の皆様には、議会臨時会にご参集を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、本日提案いたします議案は、平成27年度松島町一般会計補正予算についてご提案させていただきまして、後ほど提案理由を説明させていただきますので、ご審議の上、ご承認賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（片山正弘君） 本日の議事日程等はお手元に配付しております。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（片山正弘君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日は、2番赤間幸夫議員、3番櫻井 靖議員を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（片山正弘君） 日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日1日としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（片山正弘君） 異議なしと認めます。よって、会期は本日1日間と決定をいたしました。

日程第3 議案第39号 平成27年度松島町一般会計補正予算（第8号）について

○議長（片山正弘君） 日程第3、議案第39号平成27年度松島町一般会計補正予算（第8号）についてを議題といたします。

議案の朗読を省略し、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（櫻井公一君） 議案第39号平成27年度松島町一般会計補正予算の提案理由を申し上げます。

す。

今回の補正につきましては、平成28年3月18日付、地方創生加速化交付金の交付予定額内示に伴い、交付対象事業として決定した5事業について補正するものであります。

なお、空家・空地等実態調査事業ほか4事業につきましては、年度内完了が見込めないため繰り越しするものであります。

詳細につきましては、担当課長より説明させます。

以上で説明を終わりますが、よろしくご審議の上、ご承認の賜りますようお願い申し上げます。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） それでは、地方創生加速化交付金について、2ページつづりの配付資料に基づき説明させていただきます。

地方創生加速化交付金につきましては、平成28年1月20日に可決・成立した国の平成27年度補正予算に計上され、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応として創設されたものです。補助率は10分の10となります。

支援対象についてですが、1点目の事業分野としては、総合戦略に位置づけられた事業で、地域のしごと創生に重点を置きつつ、一億総活躍社会実現に向けた緊急対策にも資する効果の発現が高い分野となっており、①しごと創生、②地方への人の流れ、③働き方改革、④まちづくりの4つの事業分野であること。2点目として、記載の①自立性から⑦国の総合戦略における政策5原則までの7つの観点から先駆的事业であること。また、3点目として、原則としてソフト事業であること。以上の3点が事業採択の要件となっております。

交付申請の上限は、市町村にあつては、事業数が2事業、事業費が8,000万円が上限となっております。

次に、2ページ、3ページをお開きください。

本町の交付対象事業は2事業になります。

1つ目が、2ページにあります、起業家・高齢者活躍の場創生事業になります。事業分野は、働き方改革であり、空き家等や耕作放棄地、荒廃した竹林を利活用しながら、老若男女の活躍の場を創生する事業となっております。

事業内容は、空家・空地等実態調査事業、起業家支援事業、起業家・高齢者活躍の場創生事業の3事業で構成しており、事業費はこれら3事業の総額で4,800万円となっております。

2つ目の事業が、3ページにあります、官民連携による松島リブランディング推進事業になります。事業分野は、しごと創生であり、観光振興による経済効果を明らかにするとともに、地域資源を生かした体験型・交流型観光を振興することにより、何気ない暮らしの中において、地域の魅力が観光資源として数多くあることを町民が理解し、町民みずからが観光資源を発掘し、発信できる人材の育成を行い、DMO組織の土台を構築する事業となっております。

事業内容は、経済波及効果測定事業、官民連携による松島リブランディング事業の2事業で構成しており、事業費はこれら2事業の総額で3,200万円となっております。

続きまして、主要事業説明資料のNo.1になります。空家・空き店舗・未利用地等実態調査事業になります。事業費につきましては2,500万円になります。

事業の目的としては、記載のとおり、空き家及び空き店舗並びに未利用地の現状を把握し、将来的な活用方法を調査するとともに、必要な情報提供を行うことで空き家等の有効活用を図ることを目的としております。

調査業務の内容につきましては、町内の空き家等の実態調査、空き家・空き店舗、それから未利用地になります。2つ目に、空き家等所有者に対する意向調査。調査結果につきましては、希望者のみ一応公表する予定としております。

以上になります。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） それでは、主要事業説明資料2をごらんいただきたいと思えます。

起業家支援補助金事業です。事業費につきましては300万となっております。

新たに創業を目指す者に対し、創業時に必要な経費の一部を補助金として交付することを目的としております。事業を実際に稼働させていくために、商工会等と連携し、取り組む起業家に対し支援をしていくものとなっております。

補助対象経費の2分の1以内の額とし、100万円を上限として考えております。

主要事業説明資料3をごらんいただきたいと思えます。

起業家・高齢者活躍の場創生協議会補助事業でございます。事業費につきましては2,000万となっております。

一次産業での人材の活躍の場となる連携づくりと考えており、28年度は、組織づくりと資源の活用が主な取り組みと思っております。

耕作放棄地には、身近にある作物の栽培を考えており、例えば、ワラビであったりフキであ

ったりヨモギであったり、こういうものが考えられるかと思っております。農協などの指導により、植えつけ、収穫などに関しましては高齢者と連携を図り、農地の耕作放棄地解消につなげていきたいと考えております。

竹林の活用に関しましては、緊急雇用創出事業、それから、地域人づくりを活用し4年間実施してきた山林等の整備による生産物、タケノコの特産品化、販路拡大等につなげていきたいと考えております。

主要事業説明資料4をごらんいただきたいと思えます。

松島町観光経済波及効果測定業務委託でございます。事業費につきましては1,000万を予定しております。

観光は、裾野が広い産業と言われておりますが、目に見えるものとなっていないことから、町内産業の活性化の基礎資料とするため、交流人口による消費額及びその消費額から発生する町内の経済波及効果の状況及び構造を分析し、数値として「見える化」した上で今後の政策検討に資することを目的として実施したいと思っております。

主要事業説明資料5をごらんいただきたいと思えます。

官民連携による松島リブランディング業務委託でございます。事業費につきましては2,200万となっております。

個人旅行者が増加する中で、行政や観光関連業者中心の旅行振興から、他産業や住民等も一体となった旅行者を受け入れる観光地域づくりへと変化していることから、立場の異なるさまざまな関係者が参画・連携することの必要性が認識されるようになってきております。何気ない暮らしの中において、地域の魅力が観光資源として数多くあることを町民が理解し、観光資源を発掘し、人材の育成を行い、DMOの組織の土台づくりをすることを目的として実施を予定しております。

以上です。

○議長（片山正弘君） 議案の提案理由の説明が終わりました。

質疑に入ります。質疑ございませんか。3番櫻井 靖議員。

○3番（櫻井 靖君） まず、民官連携による松島リブランディング推進事業の民というふうなのは、どのような団体のことを指しているのでしょうか。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） 先ほどもお話をさせていただいておりますけれども、さまざまな関係者ということで考えております。農業であったり漁業であったり一次産業の方々、それ

から、商工の方々、それから、今現在の観光関係の業者の方々等々も含めまして連携を図る組織として考えております。

○議長（片山正弘君） 櫻井 靖議員。

○3番（櫻井 靖君） それでは、民間というふうなのは、この団体というんじゃなくて、いろいろな民間の力を利用するというふうなことですね。

それでは、この事業なんですけれども、SNSの構築やデザインや動画制作といった感じで専門的なことを要する事業だと思われるんですが、これは、産業観光課のほうでやるんでしょうか。それともほかで委託してやるというふうな事業になっていくのでしょうか。そこら辺はどうなっていくのでしょうか。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） こちらに関しましては、委託を考えております。

○議長（片山正弘君） 櫻井議員。

○3番（櫻井 靖君） わかりました。では、そういうふうな中で、ちょっと専門的なことになってくるとお思いますので、ぜひすばらしいものをつくっていただければなと思います。

それから、起業家・高齢者活躍の場創生事業なんですけど、下準備といいますか、そういうふうなものはもう話し合われているんでしょうかね。シルバー人材センター、農協、森林組合、商工会、金融関係の人たちと連携をするというふうなことになっていますけれども、そちらのほうとのお話し合いというのはもうできているのかどうか。

それから、シルバー人材センターの女性の会員に加工関係というふうなことを依頼するというふうなことが書いてあったんですが、実際問題シルバー人材センターで女性会員というのは何名くらいいらっしゃるのでしょうか。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） この事業を計画する段階で、こまいところまでは詰めてはおりません。採択されるという前提のもとで企画はしておりましたけれども、状況がまだ把握できてないというところで、この企画をする中で、関係者の方々には、こういう方向で今考えているんだけれどもということではお話をさせていただいております。

それから、シルバー人材センターの女性の働きの一つとして、加工部分という形になりますけれども、なかなか女性会員さん、今ちょっと手元にすいません、人数のほう持ってきておりませんでしたけれども、草刈りだったりとか男性の方々の業種は大変多いと伺ってございましたけれども、女性の会員さんの働きの方がなかなか少ないというところがお話の中に出ていたと

ころがありますので、こういう制度を利用して、加工の部分で活躍ができたらいいのかなという
ことで、女性の会員の働き場として考えておりました。

以上です。

○議長（片山正弘君） 櫻井 靖議員。

○3番（櫻井 靖君） ぜひ、シルバー人材センターの会員の方々が減っているというふうなこ
ともございますので、こういうふうなことをアピールしていただいて、ぜひ参加を求めてもら
えるような工夫というふうなものもあわせてやっていただければと思いますので、よろしくお
願いたします。

以上です。

○議長（片山正弘君） 他にございませんか。6番小幡公雄議員。

○6番（小幡公雄君） 1つだけ。今、人の、シルバー人材センターのお話出ていましたけれど
も、資料1の空き家、店舗等の業務委託、これはどういうところに委託するご予定でございま
すか。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 総合
コンサルタントに委託する予定で考えております。

○議長（片山正弘君） 小幡公雄議員。

○6番（小幡公雄君） せっかくこうやって国からお金が来ても、その総合コンサルタントは松
島町に籍を置いていますか。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 松島
町に籍を置いているコンサルタントではありませんけれども、現地も調査、現地を实际歩いて
調査していただいて、所有者の意向もきちんと把握をするという内容で一応考えております。

○議長（片山正弘君） 小幡公雄議員。

○6番（小幡公雄君） 空き家の実態調査、行政区、行政委員も含めていっぱい的人数がいるん
じゃないですか。なぜこれ業者に出さなきゃいけないの。ということで、というのは、せっかくこ
こ何年間かね、何十億、何百億というのか知りませんが、松島に金がおりたって、松島
町には全然回ってないというのが私の実感なんです。こういうせっかくね、業者に頼まなく
ともできるようなものは、それこそシルバーさんの話が出てましたけど、あるいは、新たに募
集したっていいじゃないですか。サラリーマンで優秀な人、松島町にいっぱいいますよ。いろ

んなメーカーだなんだって勤めた人たち。こういうのに、それこそ臨職を募集したりしているわけですから、この程度の業務委託だったら、私はできると思いますよ。プロというか、そういう看板を立ててる人でなくても。

というようなことで、金を回すことを考えてほしいということです。ね。松島はもう大変だっつてずっと去年から申し上げているのはそこなんです。こういうせっかく国からこれだけの予算を皆さん獲得して下さったんなら、町にちゃんと回るようにしてほしいと。それだけでございます。お願いします。終わります。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 調査の中身につきましては、危険度判定も含めて専門性を有する調査も入っておりますし、最終的にはGISを活用して、きちんと場所の把握から含め詳細の調査をする予定ですので、ある程度コンサルタント的な業務ができるところでないと、総合的な取りまとめが難しくなってくるということもございますので、どうぞご理解いただければと思います。（「1つだけ」の声あり）

○議長（片山正弘君） 小幡議員。

○6番（小幡公雄君） そういうお話だったらね、プロに頼んでそういうふうにしたら、じゃあ今全国で問題になってるけど、空き家の、ああここは壊さなきゃだめだっつて、そこまでやれる予算をきちっと計画しますか。そこまでやって、プロに頼んで細かい金まで全部計算して、行政に全部、松島町は張りついてますよ。空き家ぐらいわかりますよ。そういう仕事をしてきた人も町内に絶対いるはずですよ。こういうことでやるからお願いします。あるいは臨職で雇ったって、どの程度の細かいことまでか知りませんが、例えば一番目立つのは、高城の中央のところにある建物。あの空き家なんかもう何十年じゃないですか。ああいうのは誰が見たって壊さなかったら危ないっていうのはわかって、例えばそういうプロに頼んで云々で、ああこれは取り壊しですよ。そこまですぐできますか。そこを言うんですよ。実態調査というのはさ、最後までやれるところを皆さん考えてやってほしいということ。お金はさ、民力と言うんだけど、松島町の民力というのは非常に低いわけですよ。だから、こういうせっかくチャンスあるときに、ね、みんなの力で何とかしようという意識を持ってもらわなければさ、いろんなコンサルタント業務で全部ほかの業者入れて幾ら仕事したって、町にとっては、私から見れば何にも役立っていないと。そういう認識になる議員もいるということをお覚悟しておいてください。

○議長（片山正弘君） 町長。

○町長（櫻井公一君） この空き家に関しましては、国のほうの法的なものがやっと空き家に関しては整備されてきて、こういうことができるようになったと。これは、私が憶測で言うと大変失礼に当たるかもしれませんが、2年ぐらい前に3区から出ている西村議員が国土交通副大臣のときに、彼がこの件に関してかなり力を注いだと。それで、行政が空き家に対して何も手をかけられなかったことを、今度は行政が手をかけられるようにすると。そういったことで、相続等で廃屋になっている危険家屋等に関しては行政的に指導が加えられるようになったと、こういったことがやっと昨年あたりから出てきたのかなと。それに基づいて松島町では、今度はこういう空き家等に関して空き家バンク的なことも考えながら、地方から松島に住みたいというときに、こういった空き家がありますからどうぞというふうにきちっと紹介できるようにしていくというのがまず目的でありますので、個々の方々がどうのこうのじゃなくて、1つのデータとしてきちっとそろえていくということが必要かと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。

○議長（片山正弘君） 小幡議員。

○6番（小幡公雄君） だから、プロの、ね、資格が必要で、調査結果を出したいっていうんなら、地元でだって家屋調査士とかいろんな専門職でやっている人たちだっているでしょう。何も、他町とは言わないけれども、例えば仙台あたりの看板を背負った立派なコンサルタントに頼まなくても、地元の家屋調査士だって、不動産、宅建持っている人たちだって、この程度の仕事はきちっと資格を持ってやれますよ。そういうことを申し上げているんですよ。

趣旨はわかりました。ただ、そういうふうには、できるだけ町にお金が回るようお願いしたいということでございます。

○議長（片山正弘君） 他に質疑ございませんか。8番今野 章議員。

○8番（今野 章君） 小幡さんの話を聞いていて、そのとおりだなと思うので、私も1つ質問したいと思うんですが、やっぱりせっかく来るお金なのでね、町内でいかに回るかということって大事だと思いますし、年金だってそうだと思うんですよ。住んでいる町民の皆さん方の年金が町内でしっかり回ることが、町のまた活性化なると思うしね。そういう点では、我が町の町民の皆さんが稼いできたお金、得た収入、これを外にできるだけ出さないようにすると。で、町内で回るようにするというのはうんと大事なことだと思っていますので、今の小幡さんの話も、本当に貴重ないいお話だったなと思って私は聞いたんです。そういう点で、やはり町内にある民力ですね。これをどうやっぱり使うのかということもあるかとは思っています。

それは一つ置いておいて、今回地方創生ということで8,000万のお金が来るわけですが、それぞれ5つですか、こうやって事業化をされるということなんですが、まずもって調査だと。こういう形でスタートして、ほとんどが多分プロの方に委託をされて、調査をすると、こういうことになるのが多いのかなとは思いますが、ここで、ことし27年度の予算だけでも28年度ですね、この調査をして、あるいは一定程度実効性のある事業もするのかもしれませんが、その後の対応というのは町としてどういうふうを考えていくのかということもあると思うんですね。初年度来て、国からそういう金が出たので調査もしたと。だけど、その後の支援はどうなっていくのかということもあると思うので、そこを抜きでね、この事業、ただまず取っかかりで金来たんで、やってみただけでは済まない問題だと思うので、その辺今後の考え方どうなのかということもお聞かせをいただきたいと思います。それぞれ5つの事業についてそれがあれば、一つ一つお答えをお願いします。

○議長（片山正弘君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） 個々にという、個々のおのおのの事業というのはなかなかちょっとあれですけども、まず今回は前段に、どちらかといったら調査的なもので、どうなっているか。それから、それを得て、町民であったり県民であったり国民に発信していくとか。あとそれから、前に今野議員さんからありましたけれども、空き家の問題でどうのこうのと、そういう手法的なことの検討というふうに入っていくかと思います。多分これから、今まで国のお金10分の10ですけども、多分この中でそういうふうな課題が出てきて、そして、今度補助面にもくるか、それともハード的なものというふうに分かれていくだろうと。それによって町も、どれだけ対応できるかはまだ見えないところあるんですけども、町も次に追っかけていくところ、今度ハード面であったり、ソフトの具体的なものであったりと、そういうふうになっていくんでないかということはあると思います。ただちょっと正直言って、その成果を見ながら、ちょっと見えないところはまだあるのかなという感じはしています。

以上です。

○議長（片山正弘君） 今野議員。

○8番（今野 章君） そうするとね、あくまでも調査の結果を待ってという対応なのかなと思うんですが、この地方創生というのが出て1年以上になるんですかね。そういう話が出てからね。その方向性というのはもうちょっと町として、めどがあつてこの地方創生の補助金の申請なりなんなりをしたということではないんですか。あくまでも、これやってみないとわかんないから、とりあえずやってみようということで申請したということなんですか。

○議長（片山正弘君） 熊谷副町長。

○副町長（熊谷清一君） 今回5つの大きな項目がある。皆全部5つが全部同じレベルかという
と、ちょっとここに差があります。先ほどありました空き店舗の話なんかと、例えば、シルバ
ー的とか竹林とか、これは、逆にいうともっとスピードアップになるんでないかなと、そう
いうものがちょっとあるのかなという気がします。ですから、一律に同じスタートではなく、
ちょっと前向きにいけるものは、シルバーであったり、そういうレベルではできるのではない
かなというふうには思っております。（「だから、一つ一つ最初から言ってくれって言ってる
でしょう」の声あり）

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） まず、
今回の支援対象がまず大きくは2事業ありまして、最初の1事業は、あくまでも冒頭説明しま
したように、老若男女の活躍の場を創出するため、まず、3番目のところに、創生協議会への
補助金というところがございますけれども、最終的には、ここできちんとその仕事を常時創出
をして、長期にわたって展開できることが最終的には目標になりますので、今回はその取っか
かりをとということです、1年で当然それはなかなか最後まで成果として終えるというのは
難しいところがありますので、その後につきましては、そこに行くまでは、地域再生計画なん
かを使いまして、おおむね今言われておりますのは、3年から5年というスパンの中で、それ
をさらに熟度を高めていくと。そこに国の交付金、まだ詳細は明らかにはなっておりませ
んけれども、28年度からそうした交付金も準備をしているというふうに伺っていますので、1番目の
起業家・高齢者活躍の場創生事業につきましては、空き家の調査から3番目の起業家・高齢者、
これを一体的に1つのパッケージとして考えて、3年から5年で完結、きちんとそういった成
果を上げられればというふうに考えております。

2番目の官民連携による松島リブランディング推進事業についても同様でして、観光課長か
らも説明がありましたように、1年目に関しては、あくまでもそうしたDMOの組織の土台づ
くりのための事業になってきますので、これも1年でそうした官民連携の組織が完結をする
ということも難しくなりますので、同じように地域再生計画の制度を活用しながら、3年から5
年でその目途を達成できればというふうに考えております。

○議長（片山正弘君） 今野議員。

○8番（今野 章君） 国のほうは28年度以降において新たな交付金の構想があると、そういう
ことだと思うんですが、ぜひ、国のほうも、国のほうからその辺で手を離されてしまうと、本

当に町独自ではなかなかできにくいという面もあると思うんですよね。そして、せっかく立ち上がった事業が長続きしないで終わってしまうということにもなりますので、立ち上がった組織を数年にわたって支援をするという体制をどうつくるかというのは、やっぱりうんと大事なことだと思うんです。そういう意味では、松島町も含めて、ぜひその辺の目標を定めて取り組んでいただきたいなというふうに思うところです。

もう一つ気にかかったのは、やっぱりシルバー人材センターね。いつも申し上げるんですが、たしか数カ月前かな、聞いたときは、もう100人切っているというふうなお話で、しかも、前調べたときは、平均年齢が80近いと、たしかこういう数字だったんですよね。一億総活躍社会ですから、何歳になっても働ける人は働いてと、こういうことだとは思いますが、実際にお話いろいろ聞くと、草刈りをする方々が中心になっていて、そこが元気な方々の集団だと。あとはね、なかなかそういう重労働といえば重労働のようなことができる人はそんなにいないんだというような話もお聞きをしているわけなんです。実際に取り組まれる中身が草刈りのような重労働にはならないんだらうとは思いますが、シルバー人材センターが本当にその受け皿になり得るのかどうかというところを、私自身はすごく懸念をしているんです。その辺いかがなんでしょうかね。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） 今現在、どうしてもシルバー人材センターの主な働きが、やっぱり草刈り等々の仕事が多いかなと思っていました。会員の増もなかなか望めていないというところはあるんですけども。農業のほうに関しましては、中間管理機構への農地の委託というのに伴いまして、リタイアする農家の方々も大分出てきております。一つの方法とすれば、このリタイアした方に、ぜひシルバー人材センターへ入会をしていただいて、その方々の活躍ができる場として、技術であったり、知恵であったり、そういうのを生かしながら耕作放棄地の解消に向けていけるんじゃないかなという考え方を持っておりますので、一つとしてはそういう農家をリタイアした方の入会の働きかけが、28年度は一つの働きとしてできるかなと思っておりました。

○議長（片山正弘君） 今野議員。

○8番（今野 章君） 非常にリタイアしている人が多いということを含めて、これはシルバーじゃないといけないのかどうかというのが一つあるのかなと思っているんですよ。例えば、リタイアされたということだと、農村地域にそれぞれ、高齢だけどまだ元気だという人はいるよと、こういうことになるわけで、地域の、例えば老人会を見ると、大体老人会は男の人はあ

んまり集まってこない。女性中心だということになるので、会員にはなっているんだけど、集まりに参加するのは女性だよと、こういう流れがあるので、そういう点では地域のむしろその老人会や何かを活性化するという意味から言うと、そういうところも、そういう対象としてやったほうが、むしろその地域のことをよくわかっててやれるような気もするんです、私ね。だから、その組織の対象というのは老人会に限られているのか、それとも、そういった老人会的なところですね。12行政区ありますから、北部地域の老人会それぞれにそういう事業を委託するなんていうことがあってもいいのかななんて思ったりもするんですが、そういうことが可能なかどうか、その辺はどうなのでしょう。

○議長（片山正弘君） 阿部産業観光課長。

○産業観光課長（阿部礼子君） 確かに老人クラブ等の皆様もお元気ですので、そういう方々の活用もあるかとは思いますが、今町が抱えている一つの問題としては、やっぱりシルバー人材センターの会員の不足というところが一番出てきているということもありましたので、ぜひそういう農家をリタイアした方々への働きかけに伴いまして、シルバー人材センターの会員の増も含めて絡めていけるんじゃないかなと考えておりました。

これから詳しいところはまだまだ詰めていかなきゃいけないところはあるんですけれども、ぜひそういう形で、私たちも間もなく60を迎える中では、まだまだ働ける人がふえてくるのかなと思いますので、そういう方々に地元で働いていただける方法の一つとして、この協議会がきっかけになればと思っております。

○議長（片山正弘君） 今野議員。

○8番（今野 章君） 課長が60になるという話は……。

シルバーが、やっぱりなかなか会員が集まらないというのは本当に心配なことですね、そういう意味では、そういう組織がきちんとしているということも大事なことだと思うんです。どういう取り組みをされているのかよくわからないんですが、年に1回か2回、あるいは広報に募集しているようなものもありますけれども、総括でもちょっと聞いたんですけど、シルバー関係の働く時間の延長や何かの話って、調べてみましたか。たしか法律変わってね、若干緩和されてきているんですよね、そういうことも含めてね。そうすると、働く条件そのものが変わってくるわけですよね。ですから、宣伝の仕方も含めて、今までとちょっと変わるんだよということも含めて宣伝すると、また会員の集まり方というものもまた違ってくるのかなとか思っているの、そういうことも、私言っていることが正解かどうかわかりません。たしか、私の記憶ではそう新年度からなるんではなかったかなという記憶でしゃべっているの、あれなんですけ

れども、そういうことも含めて、シルバーについてはぜひ会員ふやせるように体制とっていただいて、老人会というふうにお話し申し上げてもそうはならないみたいなので、そういう体制でぜひこの予算をきちんと使っていただいて、新しい事業として確立していただければというふうに思います。そんなところで終わります。

○議長（片山正弘君） 他にございませんか。色川晴夫議員。

○10番（色川晴夫君） 皆さん大体おっしゃったので。このような事業、かつてもやっぱり、こういうのはなかったんですけど、こういう補助事業、こういう事業というのは、結構出てくるんですね。それで、今コンサルというふうなことをおっしゃいましたんですけど、長期総合計画の中でね、あれだけ調査を松島のことをしたんじゃないでしょうかね。全部はこの中には網羅されてませんけれども、当然、相当似通ったような調査が入ると思うんですね。あの中で。今回のやつでね。そういうのも一つ活用できればいいんでないのかなと、こう思います。

それから、今課長が、あと副町長も、3年から5年のスパンでこれ予算見るよと。実際、今回この予算が入ります。じゃあ3年から5年、この予算が国から入ってくるんですか。どうなんでしょうか。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 今の予定では、おおむね3年から5年、もちろん申請をして、制度をきちっと採択、計画を採択していただいてというのが前提になりますけれども、一応そういうことで話は伺っております。ただ、補助率等については、また違って来るかと思えます。

○議長（片山正弘君） 色川議員。

○10番（色川晴夫君） この辺ね、ちゃんとしないと、計画はした、調査は出た、さあ行きましょう、全くできなかったということが多いかと思うんです。一つ観光課のほうで、所管で、タケノコとかいろんなことで、緊急雇用対策ずっとやってきましたね。補助事業なくなると、その計画はそれで終わるんですよ。それじゃあまずいんですね。せっかくいい品物をつくりながら、ね、意識も得て、ああこれからやるぞとやったっけ、ほんではまた終わると。だから、それまで何とかひとり立ちできてくださいというようなことだと思うんですけれどもね。どうしても、補助金頼りの政策の事業をやっていくと、補助金終わるとそれでポシャるんですよ。ほとんどが。それじゃあまずいんですね。そういう中で、やっぱりこれは、小幡議員さんがおっしゃいましたんですけどもね、地元の人が少しでもこういう調査から何からかかわった時点から始まるとね、意識が違って来るんです。全て松島町がお膳立てして、コンサルして、調査

して、はいこのように、このように、このようにって全部お膳立てすると、ほとんどできなくなります。そういうことになると思うんです、私ね。そういうことで、やはり町内の人たちが少しでもこういうところにかかると。そして、その人が、やっぱり一生懸命入っていくということだと思っただけです。

それから、昔、空き店舗活用とか云々かんぬんってありましたね、補助事業もね。こういうことも含めながら、その空き店舗、今松島海岸駅前、あの事業でもってやって、今空き店舗ありません。だから、たまには出ますよ、経営者変わるということは。でも、そういうことになれば、海岸の場合よかったですけど、じゃあ果たして高城のまちはどうなのかと、ほかの地域はどうなのかということもね、あとは定住とか、いろんな総合計画の中に入ってくるんですよね。ですから、この辺をちゃんと精査しながら、ただ単にこれ国から10分の10来るから、使おうと。これはいいと思うんだけど、やっぱり地元の皆さんの意識が高まっていかなければ、こういうのはなかなか成功してないのかなとこう思いますけど、その辺どのように思いますか。本当に地元の人々の活用を考えていかないと、コンサルばかり当てにしていると、ちょっと後で痛い目に遭うのかなと、できなくなるのかなというようなことが私心配されますので、その辺の考え方をお聞かせください。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 例えば、官民連携による松島ブランディング事業であれば、当然、支援業務として委託を考慮しておりますので、地元の方々の当然参画を得ながらいろんな内容を考えていくということで考えておりますので、コンサルだけを頼むということではありませんので、地元の方々の参画が前提として一応考えております。

○議長（片山正弘君） 町長。

○町長（櫻井公一君） 今、色川議員からいろいろなこういう予算が出てきていると。ちょうど今から1年前の平成27年3月議会で26年度補正予算として出されたのが、地域住民生活緊急支援のための交付金ということで、6,000万ちょっとかそのぐらいありました。それが一番大きかったのはプレミアム商品券でやりました。国は今度、再度変えて、加速化交付金ということでもあります。

各議員さん方でも、いろんな地方創生で石破創生大臣の講演を聞いたり、そういったいろいろなところに行ってお話などを聞いて、国の地方創生、各自治体のアイデアを出せというようなことを多分聞いてはいるんだろうと思います。ですから、何か向こうから、国のほうから引

き出しを出されたときに、町として何もないんだということでは、これはいかがなものなのかなということ、実は担当のほうでずっと詰めていたと。長期総合計画の関係もあるので、この辺の兼ね合いはどうするんだというお話はたまたま私も聞いてましたので、やっていたと。ただ、これが、きょう皆さんに提示しているやつが、できるのかできないのかもわからないと。国からこれでいいですよということもわからない。2つ上げたけど、でも1つぐらいは来るかなという考えも中にはあったと。いろんな今回、宮城県内いろんな自治体で出されましたけれども、交付されていない自治体もある。それは何で出なかったのかは、私も内容はまだ聞いてませんが、まずはとりあえずこの国から出された、こういったことでまちづくりを少し考えてみるということで、町はこれだけのものをまず考えた。だから、これを先ほど、確かにシルバー人材も、今一番働き手がないのは、65から70歳前後だそうなんです。で、いるのは、言葉は悪いんですけども、割と高齢者の方々が多くなってきて、事務系が多いんだと。先ほど草刈りのことも出ましたけれども、草刈りもほんのごく一部の方で、なかなかいないと。草刈りも3人1グループということなんだそうですけれども、それはそれとして、こういったことで、例えばシルバーのほうに投げかけて、ああ、んじゃそれだったら我々もやってみようかということで、もしそこでキャッチボールができて、シルバーが活性化になればなおいいだろうし、そういったことも想定しながら一つ一つ丁寧に事業を進めて、まずは、先ほど小幡議員からもお話ありましたけれども、タケノコに関してもシルバーに関しても、地元の育成ということには変わらないわけですから、そういったことは十二分に踏まえて、一つ一つ丁寧にやっていきたいというふうに思います。

○議長（片山正弘君） 色川議員。

○10番（色川晴夫君） それで、これ今回、コンサルに8,000万のうち、コンサルにかかわる、出す、これ幾らですか。幾らになりますか。2,500万と1,000万と。半分ぐらいがコンサルに行くんでないんですかね。

○議長（片山正弘君） 千葉企画調整課長。

○企画調整課長兼企画調整班長兼まちづくり支援班長兼震災復興対策室長（千葉繁雄君） 官民連携のほうにつきましては3,200万、それから、起業家・高齢者活躍の場創生事業については2,500万ですので、合計で5,700万が、一応そういった対象になっております。

○議長（片山正弘君） 色川議員。

○10番（色川晴夫君） 5,700万使ってね、それで成果が出ればいいですよ。3年か5年後にね。なればいいですよ。ただ、膨大な金ですよ。5,700万ですから。せっかくこうやって町長

初め皆さんが、松島のためを思って、そういうことでこういうふうにやっていただければと、そういうような思いの中でこれを作成したんですから、これは見守りたいと思いますけれどもね、やはり本当にこのいいものを1つでも出して、成果を出して、3年から5年、確実に補助金来るような体制をとってもらいたい。じゃなかったら、この金は死に金です。そうならないようにしていただければいいのかなと。だって、長期総合計画だって、あれだけ金かけて調査してるんですよ。かなりの部分が、ダブっているところあると思うんです。そういうことも含めながら、ちゃんと調査なり、それから、今後育成をしていただければと思います。見守りたいと思います。

○議長（片山正弘君） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（片山正弘君） なしの声があり、質疑なしと認めます。質疑を終わります。

討論に入ります。討論参加ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（片山正弘君） なしの声があり、討論なしと認めます。討論を終わります。

これより議案第39号を採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（片山正弘君） 起立全員であります。よって、議案第39号平成27年度松島町一般会計補正予算（第8号）については、原案のとおり決せられました。

これで、本臨時会に付議されました議案の審議は全部終了いたしました。

平成28年第1回松島町議会臨時会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後1時46分 閉会